

# 目次 Contents

2 市長あいさつ	23 国民年金だより
3 議長あいさつ	24 <b>環境トピックス</b>
4 下野市制10周年 年表	26 保健だより <b>HealthInformation</b>
8 <b>Shimotsuke-City Topics まちの話題</b>	30 予防接種・フッ素塗布・歯の相談
10 人口ビジョン・総合戦略策定	31 地域包括支援センターだより
11 下野ブランド認定品募集	32 <b>Let's SPORTS</b>
12 税のお知らせ	34 図書館 Library Information
13 確定申告のお知らせ	35 読書人
16 タウントーク結果のお知らせ	36 <b>生涯学習だより</b>
18 消費者まつり開催	38 自治基本条例 LESSON7
19 道路愛称募集	40 しもサタ通信
20 天平の花まつり募集	42 新・下野市風土記
21 自治医科大学附属病院 連携協働コラム	43 暮らしの情報（イベントカレンダー）
22 下野市ファミリー・サポート・センター	60 国際交流員マシアスのコラム

## 今月の表紙



グリムの森では毎年地元のみなさんの協力を得て、イルミネーションを実施しています。

今年は、市制施行10周年を記念して、LEDライトを30万球に増やして実施しています。

シティプロモーション特命課長のPepperとのコラボレーションがとてもきれいでした。

期間は1月3日まで、点灯時間は午後5時～9時です。

## 今月の何の日

# 1月14日 タロとジロの日

1959（昭和34）年のこの日、南極に置き去りにされた南極観測隊の犬たちのうち、タロとジロの2頭の生存が確認されました。

1956（昭和31）年11月、南極観測船「宗谷」は53名の第1次南極観測隊員と22頭の犬（樺太犬）を乗せ、東京湾を出発しました。隊は翌年1月に南極に到着し、昭和基地を開設しました。隊から選抜された11名が第1次越冬隊として昭和基地に残ることとなり、タロ・ジロを含む犬たちも犬ぞり隊として、南極観測に大きく貢献しました。

そんな中、悲劇が起きたのは1958（昭和33）年2月のことでした。第2次越冬隊を送り込むため「宗谷」は再び南極へと向かい、厚い氷にはばまれてしまい断念。11名の越冬隊員はヘリコプターで救出されましたが、15頭の犬たちは救うことができず、氷原に置き去りにされてしまいました。

それから約1年後の1月14日、昭和基地に到着した第3次越冬隊がタロとジロの2頭の生存を確認し、日本中に大きな衝撃と感動をもたらしました。その後、ジロは第4次越冬中に南極で亡くなりましたが、タロは1961（昭和36）年に日本に帰還し、北海道で余生を過ごしました。

現在では、北海道大学植物園にタロの剥製が、国立科学博物館にジロの剥製の展示され、激動の生涯を送った犬たちの物語とその雄姿を今に伝えています。

